

# 本来の権利・利益を守る

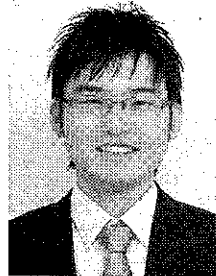
弁護士の仕事は、一言でいえば、依頼者の権利・利益を守ることです。人はみな権利を有しており、もちろん子どもであっても同様です。

では、子どもの権利はどのようにして守られるのでしょうか。

もちろん、第一次的には親(親権者)が子どもの利益を代弁します。しかし、それに期待できない



田上 裕輝さん 弁護士



場合もあります。

例えば、両親が離婚しようとしていて、父母のどちらが子どもの親権をとるかで、もめているような場合を考えてみてください。子どもは両親の離婚後、どちらのもとで生活していきたいかをどう表現すればよいのでしょうか。

家庭裁判所では、このような紛争の場合、子どもの年齢に応じ、

子どもの意向を聴いて、それを反映させるという手続きをとることになっています。

さらに今年から、弁護士が「子どもの手続代理人」として、親などからは独立した立場で、子ども自身の利益を主張し、子どもの権利を守る仕事ができる制度も導入されました。

子どもに限らず、例えば高齢者や障害者など、いわゆる社会的弱者といわれるような人々であっても、その人が本来もっている権利や利益を守る必要があり、そのために、さまざまな手続きが用意されています。

こうした手続きを紹介し、使っていくのも、弁護士の重要な役割です。

(はまた市民総合法律事務所)